

(別紙) 「第3回加東市消防団のあり方検討委員会」会議の経過

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 消防団の周知、啓蒙啓発及び団員確保対策並びに平日昼間の消防活動確保対策について(第2回開催6月30日の未協議分)

(2) 消防団員の処遇の改善及び装備品の充実並びに活動環境の改善につい

発言者	説明内容・発言内容等
議長	挨拶
事務局	前回委員会の議事要約説明
議長	前回の積み残しである、2消防団確保対策について(4)福祉厚生施設の優遇について意見を伺いたい。
委員	飲食店等に、団員が特典を利用し大勢で入店すると、店側の負担が大きいのではないのか？
委員	西脇市では既に取組を行っており、店舗によっては5%割引を提示しているところもある。
委員	中部地方のある市では、市全体で取り組みを行っている。未検証なため効果の有無は不明だが、団員には好評と聞いている。
議長	幽霊団員が特典だけを利用するようなトラブルは起こらないのか？
委員	今の所そのような話は聞いていない。
議長	女性からの意見も伺いたい。
委員	店側の負担増という意見があったが、店側としては客寄せ程度のサービス提供を行うと推測されるので問題ないと思われる。このような取組が広がり、業種を問わずにさまざまな店舗での利用が可能になれば相乗効果が生まれるのでは？ 飲食店に限らず、家族でも利用できるような店舗選定であると、より効果が大きいと思う。
議長	応援事業所が一目でわかるステッカーなどがあれば、市を挙げて取り組んでいることがわかり効果が大きくなるのではないのか？
委員	協力事業所用のステッカーは、各市町で作成しているものもあるとは思いますが、消防庁でも作成していたように思う。
議長	軽率な制度だと誤解を招かないか？
委員	市で行っている「サンサンチャレンジ」のように、市も協賛していることをうたった取り組み方を行えば誤解を招かないと思う。
議長	企業側からの意見を伺いたい。

委員	ある程度の規模の協賛店が必要になってくると思う。また協賛店に業種が偏らないような配慮も必要。
委員	商工の理解力が鍵になると思う。行政が力添えを行い、協賛店に負担がかからないように配慮を行わなければ厳しいのではないか。業種の選定においても、無作為では本来の意味が薄れるので、慎重に選定を行う必要があると思う。
議長	事業所側の負担の軽減を考慮し提案すれば協力店が増えるのではないか？
委員	協力店が増えることはいいことだとは思いますが、メリットのために活動を行っている訳ではないので、「地産地消」を推進するものではないが、地元の店舗を利用して地元密着型の形を出来れば変えたくない。
議長	<p>総体的に意見をまとめ、配慮すべき所は配慮を行いながら促進することとし、次の議題に移る。</p> <p>(5)女性の入団推奨について、後方支援として協力する案など、事務局からの説明を求める。</p>
事務局	各種大会時の司会進行、PR活動などの広報活動を行ってもらえればと考えている。
議長	現在、加東市には女性団員はいないが、消防団として必要と思っているのか意見を伺いたい。
委員	女性団員が在籍している近隣の市町の活動状況を見ていると、後方支援ではなく消防団活動に従事している。救命救急講習など、女性ならではの目線を活かした活動などを行っていければ一番かと思うが、現実的な問題は人員の確保だと思う。
議長	近隣市町の女性団員の年齢層はどのくらいなのか？
委員	三木市は緑ヶ丘地区での活動が盛んで、年齢層は少し高め。小野市は育が丘地区で、年齢層は若干若めであると思う。
委員	本団で消防団のあり方を考える場合、現状、女性消防団の問題は後向きになってしまう。女性消防団が盛んに活動しているのは漁港町など男性が出稼ぎなどで不在が多い地域。男女共同参画の時代なので、一概に無視出来ないが、仮に本団で女性団員と混成で活動していくとなると、現状ではPR活動などになってくると思う。在宅女性で消防団に興味がある方に「多くの方が勤めに出ている日中は私達が地域を守る。」という意識の元に集ってもらえれば理想的であるが…
委員	先に挙げた育が丘などの地域は、サラリーマン世帯が多く、殆どの世帯が日中は、男性が仕事に出かけ不在のため、緊急性があり発足された特異な事例である。
議長	男女共同参画という意見があったが、女性の意見を伺いたい。

委員	育児・介護などさまざまな家事がある中で、それ以外の事に割ける時間があるかと問われると正直難しい。先に挙げた地域のようにやむを得ない状況であれば活動を行うかもしれないが、現状の加東市ではそこまでの必要性があるとは思えない。他に大きなメリットがないと入団は難しいと思う。
議長	消防団入団を検討するにあたり女性消防団の存在がアドバンテージとなるか、意見を伺いたい。
委員	独身男性であれば可能性があるのではないのか。
議長	とりあえず、一度、試みしてみるのも良いのではないか。
議長	先の意見も踏まえ次の議題に移る。 (6)若者や学生の入団推奨について、現在もボランティア活動としての参加を数多く見受けるが、それを糸口として消防活動へと結びつける案などあれば意見を伺いたい。
委員	学生も自主防災組織みたいな形で入って行って広げていけばいいのでは？
委員	学校によっては消防団に入団すれば単位がもらえるところもある。
議長	周辺の学校では三木市の大学で学校消防隊を結成している。在学中に活動を行っているという早い時期から団員ともコミュニケーションを図れる事や、消防団への抵抗がないというメリットがある。市から兵教大などへ団行へへの参加をアプローチしたことはあるのか？
事務局	今のところはない。仮にアプローチするとしても、大学生は地元出身者ばかりではないので、加東市での活動経験などを地元などに持ち帰り、活かしてもらうような流れになるかと思うが、在学中は加東市に協力してもらうのもいい案かもしれない。
議長	加東市に協力してもらえるようなあり方、企画案などは考えられないか。
事務局	学生の中で興味を抱いている方が居るのであれば、そこを切り口として都度提案をしていければと思う。消火器や AED の使用方法など身近なことから入っていき、いずれは、消防団活動に繋げていけばいいのではないのか。
議長	学校消防隊結成の提案と、そこまでいかずとも身近なことから参加してもらい社会貢献に繋げていく方法の提案、この2タイプに意見が固まりそうだがそのことについて意見を伺いたい。
委員	現在もボランティアでさまざまな活動を行っているのであれば、その流れを活かしボランティア活動の一環として参加してもらうのはどうか。
委員	案だけでなく、補助をして広めるのか、ボランティア活動の一環としてすすめていくのか、具体的に方向性を固めた上で提案すべきでは。大学の敷地は広いので、万一の時に大学内で消火活動を行っていただけると助かる。
委員	最近の若者はボランティア活動など自発的に行うものであれば大丈夫だが、管理下の元に何かを行うことを不得意とする傾向があるように見受けられる。組織としての

	方向性を考えるのであればトップに就く人間がしっかりと真意やルールなどを指導する必要がでてくるように思う。
委員	学校にも専門の先生がいると思うので、市から学校側にアプローチをすれば授業として取扱いしてもらえる可能性があるのではないかと授業となれば単位がもらえるので、興味の有無に関係なく受講してもらえる。講義を受ける中で興味を示す生徒も出てくるかもしれない。
議長	今回の提案を意見としてだけで終わらせる事なく、アクションを起こしていくべきかと思うので、一度学校側に接触してみる事として、次の議題に移る。 (7) 加東市内転入者への入団促進について、意見を伺いたい。
委員	転入者に啓発案内を渡すだけなので難なく行えると思うが、年齢層などある程度ターゲットを絞る必要があると思う。
委員	入団に適正な年齢の転入者に、転入の説明時に窓口でパンフレットを渡してもらってはどうか？
委員	消防団がある地域への転入者であれば、祭などの行事を切り口に消防団に入団してもらった例を見てきた。また、普段から地域内でコミュニケーションが図れている地域であれば、地域内のコミュニティの一環として消防団に入団してもらえる事例もある。しかし、消防団の無い地域への転入者に対しての案内は、現状として難しいと思う。
議長	消防団だけの目線で考えるのではなく、地域づくりの面からの切り口も考えていく必要があると思う。
委員	転入者が転入できる地域は、転入先の居住地の関係である程度決まってしまうように思う。
議長	土壌によって温度差がある旨はわかったが、窓口でリーフレットを渡す事は可能かと思うので出来る取組から始めるという事でまとめ、次の議題に移る。 3. 消防活動確保対策について、意見を伺いたい。
委員	昼間勤務の団員が多い事や、変則的な勤務時間の職業が増えた関係で昼間に出勤できる団員が減少している。市内勤務者などの出勤対象者は約100名いるが、実際に出勤できるのは10分の1以下。機能別消防団については、年間20件程度なので火事だけに特化した機能別団員を選出し、対象団員を班分け・当番制で活動させることも検討していく必要性がでてくるかもしれない。
委員	訓練受講もなく資格も所持しない人に任命するのは難しいのでは？
委員	団員の中から選出する。通常の団活動が難しい団員などを対象に選出して構成していけば、団員の負担軽減につながるのでは？
議長	その選出方法では、楽をしたい団員が名乗り出てくる可能性が高いように思う。
委員	火災発生時の消防団の役割は、初期消火活動や消防署員が帰った後の片づけなどがあり、ある程度的人数が出動していないと対応が厳しい。そういう事を考えても機能

	別団員の制度の必要性があるように思う。
議長	現段階ではまず人員確保がメインの協議であり、この案件に関しては緊急性がある時にこのようなシステムが必要となる旨を視野に入れておくスタンスかと思われる。
委員	災害対応時には多くの団員の出動が必要なので、その時の出動態勢については考えておく必要があるように思う。
議長	前々回時に議題に挙げた加東市、市役所消防団について、事務局内での協議はまとまったのか？
事務局	まだ具体的に決まっていない。
議長	市役所の職員での機能別消防団については、今後の議題の目玉になる可能性が大きいように思う。
委員	市役所職員の消防団員は現在何名在籍しているのか？
事務局	公務員全体では70名程度。加東市役所勤務の職員だけの件数は約20～30名程度だと思う。
委員	加東市の職員の消防団員を班編成し、当番制で緊急時に出動するのはどうか？
議長	加東市内在住の市役所職員は、万一の出動時にプラスアルファで出動できるということになる。
委員	現在でも火災発生時に市役所職員の団員が出動している姿をみる。しかし、災害発生時は召集されるため、火災発生時のみの機能別団員としての結成も視野に入れて広げていければいいと思う。
議長	市内在中の職員は実際出動をしていると思うので、市外から勤務の職員で分団を作って火災発生時に出動してもらうことを視野に入れて今後検討してもらえればと思う。
委員	他の市町の例として、市役所職員がモデルとなって企業にもその輪が広がり活動を行っている例もあるので、加東市もいずれそういった形で広がっていければと思う。
議長	この件に関してはこのあたりでまとめて次の議題に移る。 第3回の委員会の議事について事務局から説明を求める。
事務局	議事内容説明。
議長	消防団員の処遇の改善について意見を伺いたい。
委員	各分団員への手当ては、団員個人への振込みではなく各分団の口座へ振り込みをしている。資金の活用状況は各地区、分団によって異なるのが現状。
委員	団員報酬で行える団員への労いはわずかなものかもしれないが、周囲の人から得られる感謝の言葉や気持ちがなにより大きな報酬なのではないかと思う。
議長	現状、金銭面での報酬に充てるというのは難しいという結論でまとめてもいいか。
委員	現状は団活動費としての流用となっている。団活動費もちろん必要だが、例えばわずかでも、団員活動の報酬として本来あるべき姿での報酬の支払いが出来るようになる

	れば、より団員の活力になるのではないかとも思う。
議長	精神報酬論も素晴らしいと思うが、時代の変化に伴い報酬の形も変わっていかないと現状はあまりに残酷すぎるように思う。この議題に関して今回はここまでにする。この問題はおそらく全国的な事と思われるので、他市町でこの問題の改善事例がないかを調査を行いその結果を元に最終回の検討委員会にて議論したい。 次に、消防団員の装備品の充実について意見を伺いたい。
委員	以前は、活動服は分団内のお下がりで着回しをしていたが、現在は自分用の活動服等を支給してもらえるようになったので非常にありがたい。
委員	トランシーバー、ヘッドライト、ボルトクリッパーなどの外、今後の装備の購入計画を聞いて非常に恵まれていると感じた。
議長	この件に関してはなんら問題が無いようなので次の議題に移る。 次に、消防団員の活動環境の改善について。詳細は先の事務局からの説明にもあったので割愛するが、年間行事の削減等について意見を伺いたい。
委員	年間行事も以前に比べたらかなり軽減されてきたと思う。
委員	防火パレード開催の事を小学生に事前広報するとPRになるのではないかな？
議長	ここまでの議論でいかに団員が苦勞しているかがよく理解できたように思う。このような苦勞が少しでも改善出来る様、今後も議論をしていければと思う。
事務局	次回開催は、12月の予定。日程調整次第追って連絡する。以上。

5 閉会